

算数	課題分析	授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> 授業の流れを整え、児童に見通しをもたせる授業展開を確立する。 ICT機器を生かした授業内容の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題設定、見通し、実行、実践、検証の流れを基本とし、授業の流れを黒板に明示する。 授業内容に即して、児童が視覚的に理解できる、デジタル教科書・実物投影機・黒板での提示を行う。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 長さ、かさ、繰り下がりの引き算、時刻と時間の求め方など、単位換算の考え方や計算を身に付けられるようにする。 学習の流れを統一させて、児童に見通しをもたせる授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの習熟プリントを活用し、定着を図る。 めあての提示からまとめまで、板書で学習の流れをパターン化する。デジタル教材を常に活用して、児童の理解を深める手だてにする。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 大きい数、時刻と時間の求め方、表とグラフなど、基礎基本の概念を確実に身に付けられるようにする。 文章題の題意を理解し、自分の考えを明確にして、問題解決できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> めあての明確化、まとめや振り返りを確実にを行うことを繰り返す。ICTを利用し、板書を構造化していく。課題のある児童には個別指導を増やす。 文章題からイメージすることを図や言葉で表し、立式の根拠をもったり、それを友達と交流したりして、考え方を確かめたり広げたりできるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 小数、分数の意味や表し方、図形の構成を理解し、整数、小数、分数の計算、作図の技能を身に付けられるようにする。 数直線や図を使う良さを知り、数直線や図を用いた問題解決方法に慣れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の振り返りやノート、ドリルなどによる復習を行い、習熟を図るとともに、東京ベーシック・ドリルを活用し、定着を図る。 問題文を数直線や図に表現する場面を設け、児童同士での交流を通して理解を深めるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 小数のかけ算、わり算、体積の計算といった基礎基本を定着させる学習活動を適宜設ける必要がある。 数直線や図から立式できるように、数直線や図を用いた問題解決方法に慣れる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の振り返りやノート、ドリルなどによる復習を行い、習熟を図るとともに、東京ベーシック・ドリルを活用し、定着を図る。 随時教科書の振り返りを行い、数直線や図を用いた解決方法を確認し、定着を図る。児童同士で説明し合い、理解が深まるよう

		にする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形の概念及び意味、計算の仕方などを身に付けられるよう、基礎基本の定着を図る学習活動を取り入れる必要がある。 既習事項を活用しながら問題を解決していくことができるよう、多様な表現方法を用いながら考察する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書やドリルを活用し、練習問題や復習を繰り返し行い、学習の定着を図る。 具体物やICT教材を活用して既習事項を振り返りながら学習を進める。 友達と説明し合ったり、全体で共有したりする活動を工夫して行い、理解を深める。
専科	課題分析	授業改善策
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 歌声や楽器の音色の美しさ、他者と協働して表現する喜び等に気付くことができる課題提示の工夫をする必要がある。 音楽の要素と構造との関わりを結び付けて演奏したり聴いたりする学習活動を意図的に設定する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者と表現する場の設定を多くしたり、表現の工夫の仕方について具体的な例を示したりして、主体的に取り組めるようにする。 演奏したり鑑賞したりするときに、音色や音楽の要素や構造に触れ、表現に生かす活動を設ける。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 作りたいイメージをもち、それに合わせて材料や用具を選択する力を身に付けさせる必要がある。 自由な発想を膨らませるための環境づくりを工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や道具の特性やよさを知り、基本的な使い方を習得させ、自分のイメージに合わせて選択し、使用できるようにする。 参考資料や五感を刺激する材料、環境を用意し、発想や構想の手助けとする。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣と関連させた学習内容を提示し、家庭生活で実践する意欲を喚起できる課題を設定する必要がある。 調理の実践的な学習を生かした課題を設定し、日常生活で技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 実生活の課題や、よりよい生活のために自分にできることを考えさせ、積極的に取り組めるよう指導する。 ICT機器やワークシート等を活用し、家庭での実践について指導し、振り返りを行う。